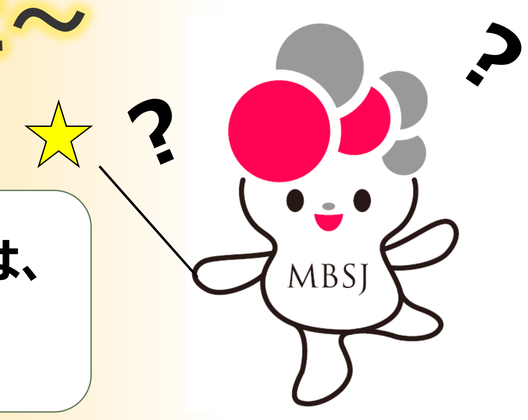
バランスのとれた研究環境を築くために
～2014属性調査から学べること～

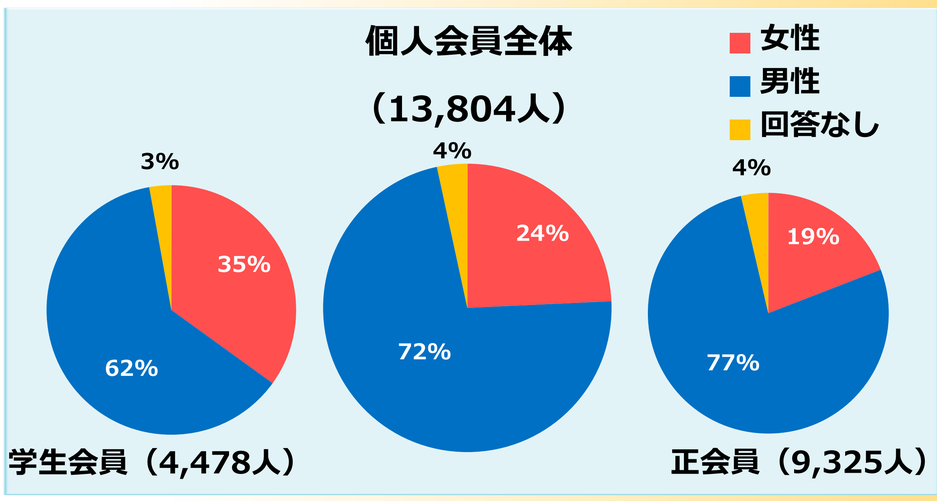


！疑問！

シンポジウム・ワークショップなどのオーガナイザー・口頭発表者における女性比率は、学会員全体における女性比率と比べて低いのではないでしょうか?

大学や研究機関での男女共同参画を推進するために、学術研究発表の場である学会の大切な役割の一つは、優れた研究に対して、性差などに関係なく、より積極的に発表し、評価される機会を創出することだと言える。上記の疑問をもとに、日本分子生物学会男女共同参画委員会（現：キャリアパス委員会）は、年会発表者が属する性（属性）について、2009年度から継続調査を行っている。

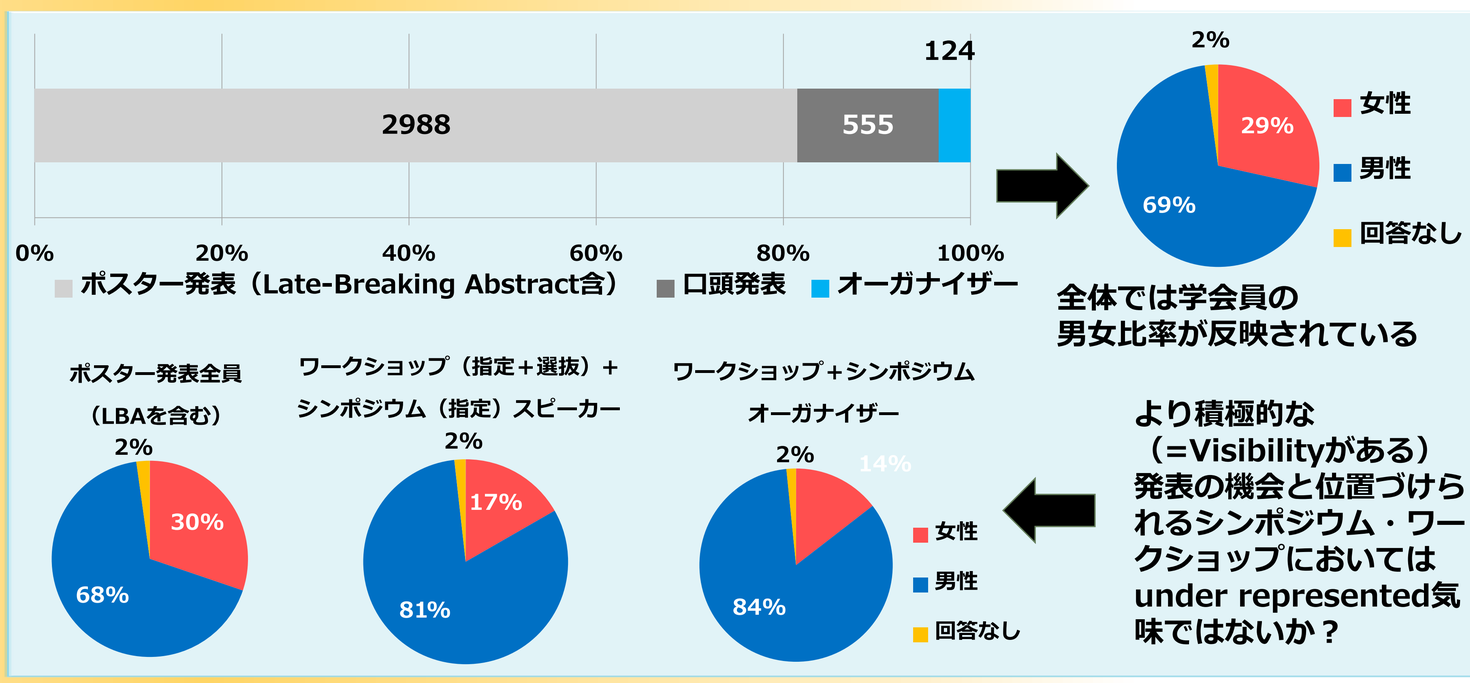
1）日本分子生物学会会員の男女比率（2014年10月31日 現在）



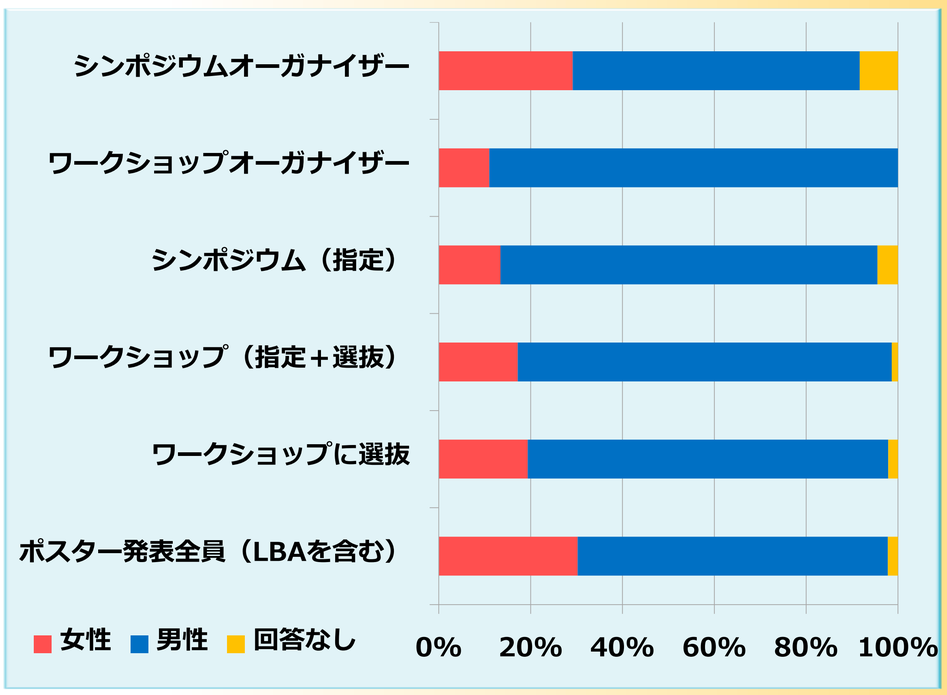
2）2014年 第37回日本分子生物学会年会における属性調査

年会事前登録システムや学会事務局からの依頼によるアンケートを行った（回答は任意）。参加形態、性別、年齢、所属、身分について、発表者の実態データ収集に協力して頂いた（のべ発表者数3,667名、対象者3,243名）。

3）学会発表にはどのような参加の仕方があるのか



4）各カテゴリーにおける属性分布の比較



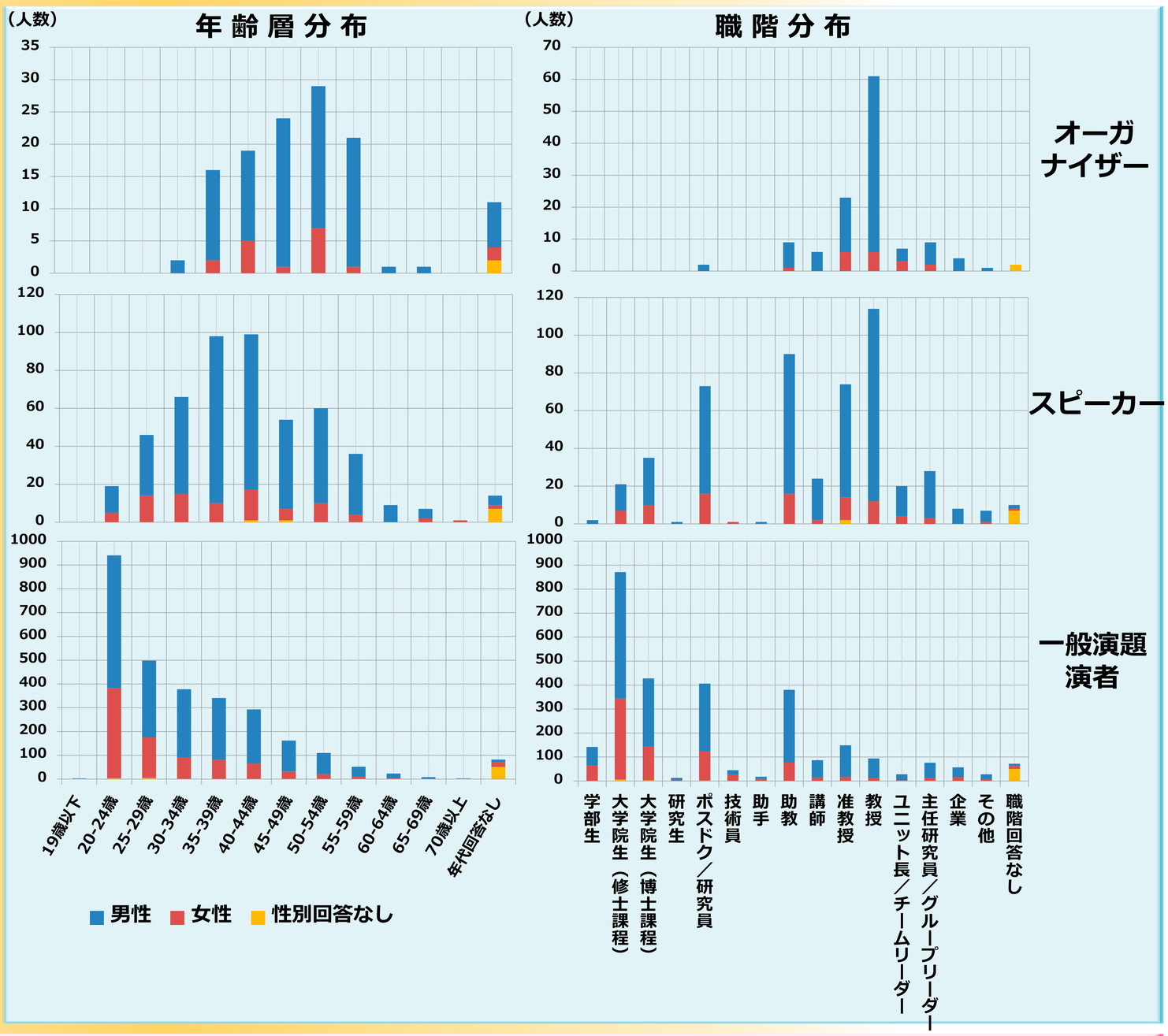
5）発表者が決まるプロセスの違い

- **シンポジウムオーガナイザー・スピーカー**：
  年会プログラム委員会で検討し、依頼する

- **ワークショップ**
  オーガナイザー：自薦の中から選抜される
  スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼する
  （一般演題発表者からの選抜を含む）

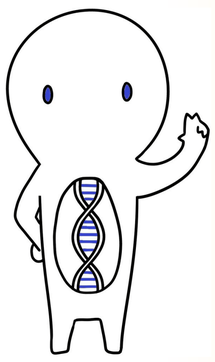
- **一般演題発表者**：自発的な申し込み

6）年齢・職階と発表カテゴリーとの関係は？



お願い！

本当にバランスのとれた状態を実現するためには、継続的な属性調査を行い、現状把握と取り組みの方向性を検討していくことが大切です。
どうぞご協力をお願いいたします。



まとめ

1. **一般演題発表者の男女比**：学会員の男女比をほぼ反映しており、調査開始以来大きな変化はみられないが、緩やかに上昇している*。
2. **ワークショップ・シンポジウムにおける男女比**：スピーカー全体における女性比率は、正会員の女性比率（19%）を下回るものの、過去最高となっている。個別には、一般演題より採択されたスピーカーにおいて女性比率が最も高かった。シンポジウムオーガナイザーでは、ワークショップオーガナイザーよりも女性比率が高く、候補者における男女比の影響を検討する必要がある。
3. **発表者の年齢層分布及び職階分布**：一般演題発表者→スピーカー→オーガナイザーの順に、中核をなす年齢層及び職階が上昇する。このシフトにおいて女性比率が低下する傾向がある。

* 過去データについては2013年属性調査を参照（http://www.mbsj.jp/gender_eq/doc/2013_zokusei_chosa.pdf）